

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)高槻市富富寿米住宅建替事業(2工区C棟) 新築工事	階数	地上11F
建設地	大阪府高槻市富田町	構造	RC造
用途地域	第一種中高層専用地域	平均居住人員	448 人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)
建物用途	集合住宅	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2025年11月 予定	評価の実施日	2024年3月27日
敷地面積	6,059 m <sup>2</sup>	作成者	株式会社長谷工コーポレーション 上田
建築面積	1,578 m <sup>2</sup>	確認日	2024年3月27日
延床面積	7,360 m <sup>2</sup>	確認者	株式会社長谷工コーポレーション 萩山



### 2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

**BEE = 2.3**

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B: ★★★★★ B: ★★ C: ★

### 2-2 ライフサイクルCO<sub>2</sub>(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外の ④上記+

46 (kg-CO<sub>2</sub>/年・m<sup>2</sup>)

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量の目安で示したものです

### 2-3 大項目の評価(レダ-チャート)

### 2-4 中項目の評価(バーチャート)

**Q のスコア = 3.8**

#### Q1 室内環境

Q1のスコア= 3.7

#### Q2 サービス性能

Q2のスコア= 3.4

#### Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア= 4.5

**LR のスコア = 3.7**

#### LR1 エネルギー

LR1のスコア= 4.3

#### LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア= 3.5

#### LR3 敷地外環境

LR3のスコア= 3.3

3 設計上の配慮事項		
総合		その他
環境と負荷軽減に配慮し、緑地を確保し緑量感のある計画を行っている。		
Q1 室内環境	Q2 サービス性能	Q3 室外環境(敷地内)
室内環境の向上を目指し、F☆☆☆☆建材を使用している。	劣化対策等級3など耐久性に優れた建物としている。	敷地境界沿いに緑化を行い、周囲への景観に配慮してる。
LR1 エネルギー	LR2 資源・マテリアル	LR3 敷地外環境
BEI=0.78であり環境に配慮した設計を行っている。	有害物質を含まない建材を利用している。	適切な駐車スペースを確保している。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)  
 ■「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 ■評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

【建物概要】 建物名称		(仮称)高槻市宮富寿栄住宅建替事業(2工区C棟) 新築工事					
建設地		大阪府高槻市富田町					
用途/区分		集合住宅					
【評価結果】	CASBEE 総合評価	★★★★☆				A	
①	CO2削減	★★★★☆				4	
②	みどり・ヒート アイランド対策	★★★★☆				4	
③	断熱性能	★★★★☆				4	
		建築物省エネ法に基づく 省エネ性能レベル	住宅(住棟)又は 複合建築物の住宅部分	1 2 3 4 5 6 7		4	
④	エネルギー消費性能	★★★★★				5	
		建築物省エネ法に基づく 省エネ性能レベル	住宅(住棟)又は 複合建築物の住宅部分	★★★☆☆	評価対象外		2 評価対象外
⑤	自然エネルギー直接利用					○	
再生可能エネルギー 利用施設の導入状況		太陽光発電	○	風力	—	地熱	—
		太陽熱利用	—	水力	—	バイオマス	—
エネルギー消費量の報告						対象外	
【評価項目】							
項目	評価内容					スコア	評価
① CO2削減	CASBEE LR3 敷地外環境 1. 地球温暖化への配慮					3.8	4
② みどり・ヒートアイランド対策							
生物環境の保全と創出	CASBEE Q3 室外環境(敷地内) 1. 生物環境の保全と創出					4.0	4
敷地内温熱環境の向上	CASBEE Q3 室外環境(敷地内) 3.2 敷地内温熱環境の向上					5.0	
温熱環境悪化の改善	CASBEE LR3 敷地外環 2.2 温熱環境悪化の改善					3.0	
③ 断熱性能	CASBEE LR1 エネルギー 1. 建物外皮の熱負荷抑制					4.0	4
④ エネルギー消費性能	CASBEE LR1 エネルギー 3. 設備システムの効率化					5.0	5
⑤ 自然エネルギー利用	CASBEE LR1 エネルギー 2. 自然エネルギー利用					3.0	○
エネルギー消費の実態把握に努める	エネルギー消費量の実績を3年間報告する。					報告する 報告しない	-
その他							
先進的技術の導入	技術の名称			考慮事項			
特に配慮した事項							